

学校概要

創立 49 周年	学校長 千本 恵子	副校長 瀧田 健二	学期 2 学期制	児童・生徒数 420 人
学級数 一般級: 15 個別支援級: 3			主な関係校: 大正中、大正小、東俣野小	

学校教育目標

～すすんで学び、認め合い、かがやこう 小雀の子～

(知) 自ら学習に取り組み、自分の考えを深める子を育てます。
 (徳) 自分や友達の良さに気付き、互いに助け合える子を育てます。
 (体) 心と体を鍛え、命を大切にすることを育てます。
 (公) 地域の人、物を大切に、地域と共に生きる子を育てます。
 (開) 様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。

学校の特徴

- 緑豊かな環境にある学校であり、生活科や『横浜の時間』に活用できる材が豊富にある。
- PTAや学援隊・図書ボランティアなどが熱心に活動を行い、教育活動を手厚く支援してくれている。
- 職員間の連携がよく、「全職員で全児童を育てていく」という意識がある。
- よりよい授業づくりのために、教員同士で学び合おうとする積極的な姿勢がある。
- 学力・学習状況調査の結果から、基礎・基本の定着に一層力を入れる必要がある。
- 生活意識調査から、児童の自尊感情を高めていくことが必要である。

学校経営中期取組目標

- 子どもたちの将来を見据えながら、まちと共に歩む学校づくりを推進します。
 - ・ 一人ひとりの子どもが学習の楽しさを味わえる授業づくりを推進し、学力の向上に努めます。
 - ・ 一人ひとりの子どもが安心できる居場所を保障し、自尊感情を高めるとともに、互いの違いを認め、大切にしようとする子どもを育てます。
 - ・ 全職員の協働意識を大切にしながら学校運営や教育課題に取り組む中で、職員の資質を高めていきます。
 - ・ 保護者・地域、近隣の幼稚園・保育園、小中一貫教育推進ブロックの各学校等と連携して、子どもの成長を支えていきます。

小中一貫教育の取組

大正中	ブロック	大正中、小雀小、大正小、東俣野小
9年間で育てる子ども像	○ 学習に向かう姿勢を身に付け、粘り強く学ぶ子ども ○ 互いの違いを認め合い、自他を大切に、学び合い、高め合える子ども ○ 気持ちよいあいさつができ、周囲とよい人間関係を構築する子ども ○ きまりやルールを守り、よりよい集団を築く子ども	
自校の具体的取組	・ ブロック内で共通理解した、「中学校入学までに身に付けさせたい内容」について教職員で共通理解し、指導する。 ・ 合同授業研究会を通し、授業改善を図るとともに、児童理解や職員の交流を図る。 ・ 共通のテーマである「あいさつ」に向かって、「自分からあいさつ」を合言葉に主体的に明るくあいさつができるように取り組む。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	「わかった」「できた」という喜びを感じられる授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。また、授業での「学び合い」を重視し、言語活動を充実させる。	○ 教室や特別教室の環境の整備とともに、児童が安全・安心して学習できるよう基礎・基本の定着を大切に、より一層の授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。 ○ 児童が「相手意識」を大切にして伝え、考え、行動する力を育てる。また、学習や活動の内容が次の時間につながっていくよう、教師が各教科を関連付けた学習になるよう授業を工夫する。
豊かな心	道徳の時間はもとより、全教育活動を通して、よりよい人間関係を築いていこうとする子どもの姿を価値付け、自尊感情の向上を図る。	○ 縦割り班活動等の異学年交流を通して他者を大切にする心や協力する心を育てる。さらに「相手」を意識したり、自分から進んで関わったりすることで自尊心を高めていく。 ○ 道徳の授業を年一回公開し、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。また、道徳の新しい内容項目を取り入れたカリキュラムを実践しながら、よりよいものへ改訂していく。
健やかな体	基本的な生活習慣を身に付ける活動に全校で取り組む。また、一校一実践運動に継続的に取り組みながら、体力の向上を目指す。	○ 歯みがきタイムや歯みがきキャンペーンを継続し、より良い歯みがき習慣の定着を図る。 ○ 一校一実践として、週に一度のクラス遊びの時間を確保し、体力の向上を図る。また、運動委員会を中心に、長縄集会やマラソン週間を企画し、クラスで団結して目標達成のために取り組んだり、寒い時期にも積極的に体を動かしたりできるようにする。
児童生徒指導	全教職員が指導方針を共有して、一貫性のある指導を行う。また、子どもの将来を見据えて、関係機関と連携を図りながら、組織的かつ継続的に指導を行う。	○ 全職員で同じように指導していくことで安全・安心して学校生活を送り、好ましい人間関係を育てよう指導する。 ○ 問題の未然防止や早期発見・早期対応をするために情報交換・事実確認を行い組織的に指導にあたる。 ○ 児童保護者への適切な相談や支援のために関係機関との連携を図る。 ○ 自閉症理解研修やYP研修などを行い、個に寄り添った適切な支援をする。
特別支援教育	配慮が必要な児童の支援について、全教職員で共通理解を図り、見通しをもった指導を行う。	○ 特別支援教育についての理解を深めるとともに児童の情報を職員間で共有し、適切な支援ができるようにする。 ○ 関係機関と連携を図り、6年館を意識した支援を行う。 ○ 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、子どもたちが安心する環境で学習に取り組めるようにする。
地域連携	保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努める。また、学校の情報発信を充実させ、教育活動への理解を図る。	○ 学校だよりやホームページ、学校評価アンケート、懇談会などを充実させ、日常的に情報を発信し学校の教育活動への理解を図る。 ○ 児童が地域の一員としての意識をもち地域行事に進んで参加するよう支援する。 ○ 図書ボランティアや学援隊など、地域や保護者の方の理解と協力に対して感謝の気持ちをもって接する。
いじめへの対応	一人ひとりが安心して過ごせる学校・学級づくりに努めるとともに、道徳教育、人権教育の充実を図る。	○ 一人ひとりの児童のよさを積極的に見つけて認め、児童同士で認め合う機会をつくったりしていく。また、児童自身を肯定的にとらえていくことで新たな自分の良さに気付かせ、自尊感情を高めていく。 ○ 教職員の意識を高めるための研修を行う。 ○ 気持ちに寄り添い指導を行う。 ○ 問題の早期発見・事実把握等組織的対応に努める。
人材育成・組織運営	○ JTを充実し、教職員の専門性を向上させ、6年間つながりのある指導に取り組む。また、メンターチームが主体的に研修に取り組み、指導改善を推進する。	○ メンター研修では、年間計画を立て、計画的に研修を行う。授業研究を通して授業力を高めていく。短時間で効果的な研修になるよう、事前研・事後研の在り方を見直す。 ○ 児童理解、学力向上、危機管理等の校内研修を行い、教職員の授業力をはじめとする資質・能力の向上にむけて研修をする。誰もが安心して、働ける組織づくりを意識する。